

第4章『即役立つVimテクニック&プラグイン』付録 Vimコマンドリファレンス

※ 本コマンドリファレンスはSoftware Design 2011年5月号 第1特集「Vim & Emacsをちゃんと使えていますか?」の第4章 (P.44) で解説しているVimの付録データです。本誌記事とあわせてご活用ください。

アリエル・ネットワーク(株) 大山 裕泰 OHYAMA Hiroyasu

Vimにはそれこそ無数とも思えるコマンドがありますが、ここには誌面の本文中に登場するコマンド、およびストレスなしに文書やコードを編集するうえでの最低限のコマンド、そして筆者がよく使うコマンドを紹介します。またここでは厳密さよりもわかりやすさを優先した説明を記載しています。厳密なコマンド定義を確認したい場合は「:help」コマンドからリファレンスを参照してください。

■コマンド表記例

ここで紹介するリファレンスのフォーマットを次に示します。同様の処理については、コマンド部分を“,” (カンマ)で区切って記載します。また、ここに示すすべてのコマンドは原則、ノーマルモードから実行されます。ノーマルモード以外のモードから実行されるコマンドについては、コマンドの前の“{Mode}”で表します。また文中のC-xは[Ctrl]を押しながら[x]を押すことを表します。

キー入力	動作
{Mode} “コマンド”	コマンドの説明

なお、表中に※印のあるコマンドは、コマンドの前に数値を入力することで、そのコマンドの数値分だけ繰り返すことができることを意味しています。

モード切り替え

キー入力	動作
i , a	インサートモードへの切り替え。モード切り替え後、それぞれ、現在のカーソル位置/現在のカーソル位置の1つ後方にカーソルを移動
{Insert} Esc	インサートモードからノーマルモードに戻る
v , V	ビジュアルモードへの切り替え。それぞれ、文字単位/行単位の範囲選択を行う
{Visual} v , V , C-c	ビジュアルモードからノーマルモードに戻る

カーソル操作

キー入力	動作
l (*)	カーソル位置を右に移動
h (*)	カーソル位置を左に移動
j (*)	カーソル位置を下に移動
k (*)	カーソル位置を上を移動
w , e (*)	単語(word)単位での前方カーソル移動。 e では空行を無視
b (*)	単語(word)単位での後方カーソル移動
(,) , [,]	文、段落単位でのカーソル移動。開き括弧で後方へ移動し、閉じ括弧で前方へ移動する。日本語文章に対しては単語移動と比べて精度が悪く、日本語ドキュメントに対しては厳密な文、段落を単位とした移動は執筆時の最新版では正確に行われない
0	行の先頭に移動
\$	行の末尾に移動

キー入力	動作
C-b, C-f ^(※)	ページ(画面表示 2 行分)単位でのカーソル移動。それぞれ、前方/後方への移動
C-y, C-u ^(※)	カーソル位置を固定して、1 行分だけ画面をスクロール。カーソル移動をしないため、特定の行を編集中に上下の範囲を確認するのに便利。それぞれ、前方/後方への移動
g g, G	それぞれ、バッファ(現在開いているファイル)の先頭/末尾に移動
<n> g	<n>の部分には数値が入る。バッファの<n>行目にカーソルを移動

文書編集

✳️ 削除

キー入力	動作
d d ^(※)	カーソル行を削除。削除された文字列はレジスタに格納される
D ^(※)	現在のカーソル位置から文末までを削除。削除された文字列はレジスタに格納される
x, X ^(※)	それぞれ、現在のカーソル位置の前方/後方文字を削除。削除された文字はレジスタに格納される

✳️ ヤंक

キー入力	動作
y y, Y ^(※)	それぞれ、現在のカーソル行をレジスタにコピー
{Visual} y, Y	ビジュアルモードにおいて、選択範囲をレジスタにコピー

✳️ ペースト

キー入力	動作
P, p ^(※)	それぞれ、現在のカーソルの前/後にレジスタに格納されている文字列を貼り付ける

検索 / 置換

✳️ 検索

キー入力	動作
/ <keyword>, ? <keyword>	<keyword>の部分には文字列が入る。<keyword>を検索キーワードとしたバッファ内検索を行う。それぞれ、前方/後方検索を表す。検索実行後、nまたはNを押すことで、順方向/逆方向へヒットした文字列の部分にカーソルを移動させることができる

✳️ 置換

キー入力	動作
{Visual} : , < , < , < , < , > , s , / <old> / <new> /	ビジュアルモードでの選択範囲中に含まれる文字列<old>を<new>に置換。使用するVimによっては、ビジュアルモードで範囲を選択した後に:を押すと、“<”の部分が自動補完される
{Visual} : , < , < , < , < , > , s , / <old> / <new> / g	ビジュアルモードでの選択範囲中に含まれる、すべての文字列<old>を<new>に置換

その他

キー入力	動作
e <file>	<file>の部分には、ファイル名が入り、指定したファイルを開く。<file>を省略した場合には、ファイラが起動する
w	現在開いているバッファをファイルに保存
q	Vimを終了。複数のバッファを開いている場合には、現在のバッファを閉じて次のバッファを開く
u, C-r ^(※)	Vim 内部の編集履歴を用いて、Undo (ロールバック)/Redo (ロールフォワード)を実行
C-c	検索入力、コマンド入力、ビジュアルモード中の範囲選択などをキャンセル